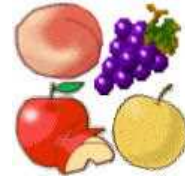




# 平成30年度 果樹情報 第13号

(平成30年9月21日)

福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況 (9月前半：果樹研究所)

平均気温は、平年と比較すると1半旬が23.1℃で0.8℃低く、2半旬が21.8℃で0.8℃低く、3半旬が20.1℃で1.3℃低く経過しました。

この期間の降水量は89.0mmで平年の113%でした。

## 2 生育状況 (9月15日時点：果樹研究所)

### (1) りんご

#### ア 果実肥大状況

リンゴの暦日比較では、「ふじ」は縦径101%、横径103%と平年並、満開後日数による比較では平年よりやや小さい状況です。

#### イ 「ふじ」の裂果発生状況

9月18日現在(満開後149日)の「ふじ」/マルバ台果実の外部裂果率は5.0%、裂果発生率は28.3%でした。

「ふじ」/JM2台果実の外部裂果率は1.7%、裂果発生率は15.0%でした。

表1 「ふじ」の裂果発生状況

調査樹	樹齢	外部裂果率 (%)				裂果発生率 (%)			
		H30	H29	H28	H27	H30	H29	H28	H27
ふじ/マルバ台	16年生	5.0	1.7	6.7	5.4	28.3	38.3	33.3	18.9
ふじ/わい台	19年生	1.7	0.0	4.9	0.0	15.0	20.0	45.9	14.1

※調査規模：マルバ台2樹、わい台(JM台)5樹の目通り付近から、それぞれ合計60果採取した。

※H30は、マルバ台16年生、JM2台19年生で実施した。

※外部裂果率：つる割れ、浮皮等の割合、裂果発生率：外部裂果及び内部裂果の割合

### (2) なし

#### ア 主要品種の収穫期と果実品質

「豊水」の収穫盛は9月8日で平年より11日早く、「二十世紀」は9月13日で9日早まりました。「豊水」の果実重は平年よりかなり小さく、二十世紀は平年よりやや大きい状況でした。「豊水」の糖度は平年より高く、「二十世紀」は平年並でした。

表2 なし主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/20	8/25	8/25	8/23	8/31	8/30	8/27	9/6	9/4	365	380	380	12.7	12.6	11.0
豊水	9/4	9/13	9/11	9/8	9/19	9/16	9/18	9/25	9/25	307	429	404	14.4	12.8	11.6
二十世紀	9/11	9/18	9/14	9/13	9/22	9/17	9/18	9/27	9/21	424	401	428	11.6	11.2	10.3
ラ・フランス	未	10/6	10/3	未	10/7	10/3	未	10/9	10/3	未	294	291	未	12.9	13.3

注) 平年値は、1986～2015年(ラ・フランスは1987～2015年)の平均値 未は未確定。

### イ 「ラ・フランス」の成熟経過

果肉硬度は平年並～やや高く、デンプン指数は平年よりも高く推移しています。

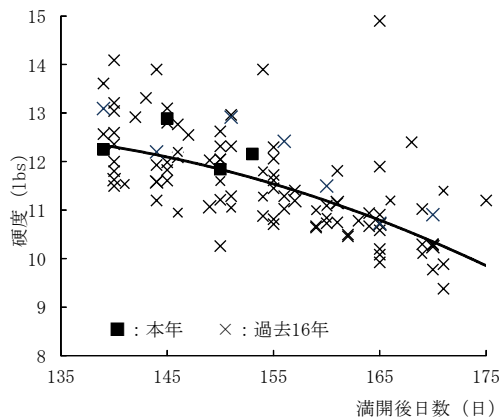


図1 「ラ・フランス」の果肉硬度の推移

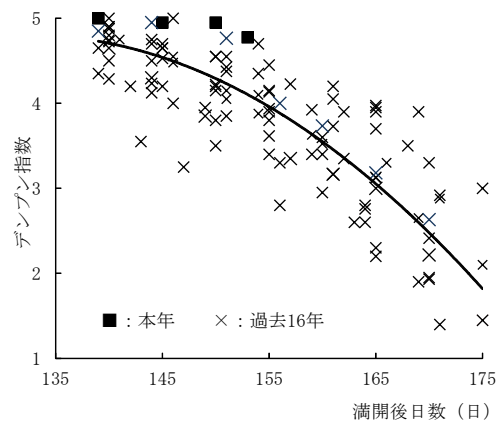


図2 「ラ・フランス」のデンプン指数の推移

### (3) ぶどう

#### ア 「シャインマスカット」の収穫期と果実品質

収穫始めは9月18日で、平年より5日遅い状況でした。収穫始め（9月18日）の果実品質は、糖度が17.0、酒石酸が0.29、糖酸比が59.4でした。

表3 「シャインマスカット」の成熟状況と収穫始めの果実品質

品種	調査日	満開後 日数	果房重 (g)	1粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酒石酸 (g/100ml)	糖酸比
シャイン マスカット	8/23	77	489.0	11.4	15.9	0.52	30.2
	8/30	84	499.1	12.4	15.6	0.44	35.2
	9/6	91	492.3	13.1	16.0	0.37	42.9
	9/18 (収穫始)	103	517.9	13.4	17.0	0.29	59.4

### 3 栽培上の留意点

#### (1) も も

##### ア 秋肥の施用

良好な発育枝の発生が少なく、新梢長が短いなど樹勢低下が認められる場合には、収穫後、9月中を目処に秋肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めましょう。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a程度（あかつき：中肥沃度地帯の場合）を施用しましょう。なお、樹勢の低下が見られる樹では分肥とし、窒素成分で冬肥を2kg/10a程度減肥し、その分を春肥で施用しましょう。

秋雨により、新梢の二次伸長が著しいなど地力窒素の遅効が認められる場合には、秋肥の施用量を調節し、冬肥と春肥を中心とした分肥とします。

##### イ 秋季せん定

本年は、新梢伸長期の乾燥が著しく樹勢低下が認められるため、樹勢に応じたせん定方法とします。また、モモせん孔細菌病の防除効果を高めるために実施しましょう。

##### (ア) 樹勢が強く徒長枝の発生が多い場合

9月中旬頃（徒長枝が太る前）を目途に収穫が終了した品種から秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋期防除における薬液透過の改善を図りましょう。

##### (イ) 樹勢が適正な場合

主枝や亜主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹勢の乱れを防ぎましょう。

(ウ) 樹勢が弱い場合

秋季せん定は最小限とし、葉芽の多い中果枝や長果枝を多く配置することで、樹勢の回復を図りましょう。

(エ) 若木及び幼木の場合

若木では、樹勢が適正な場合と同様の方法とします。特に、幼木から若木時代の冬季の強せん定は寒凍害を招きやすいので、冬季に大きな切り口を作らないように、秋季せん定時に主幹部の強勢な枝を整理しましょう。

(オ) モモせん孔細菌病の発生が多く見られる場合

菌密度の低減を図るために、樹勢を乱さない範囲で秋季せん定を実施することが効果的です。1回目の秋期防除前には秋季せん定を行い、ボルドー液がムラなく散布されていることを確認し、葉液の到達を妨げる枝がある場合は、再度見直して除去するなど、防除効果を高めるよう工夫しましょう。



図3 ボルドー液の散布ムラ  
斜線上側には薬液が到達していない

(2) なし

ア 「あきづき」、「ラ・フランス」の収穫

満開後155日現在、果樹研究所内「あきづき」の地色指数は4.4で平年（地色指数3.4）を大きく上回っており、果皮中のクロロフィル含量は平年に比べてかなり低下しています。

「あきづき」は、日本なし地色用カラーチャートで地色指数3.5～4の果実が糖度や食味の点で優れ、収穫適期となります。地色指数4を越えると糖度は高くなるものの硬度が低下してシャリ感が消失する傾向が認められるため、収穫が遅れないように注意しましょう。

また、「ラ・フランス」の収穫基準は表4を参考にし、収穫が遅れないように注意しましょう。

表4 「ラ・フランス」収穫適期の新たな基準

	生育日数 (日)	地色 指数	硬度 (lbs.)	デンプン 指数
新たな基準	160～165	3.0	11	3.0～3.5

注) 平成28年度農業総合センター普及成果情報

イ 秋肥の施用

中生種以降の品種では落葉までの期間が短いので、収穫期中盤から収穫直後に実施しましょう。窒素肥料は速効性肥料を用いて行い、肥持ちの悪い土壌や有効土層の浅い土壌では速効性と緩効性のものを組み合わせて施用しましょう。

(3) りんご

ア 中生種の収穫前管理と収穫

落果防止剤の散布、着色管理および収穫等の作業が遅れないようにしましょう。なお、落果防止剤の使用に当たっては、収穫前日数に注意しましょう。

収穫は、食味（果肉硬度、デンプン等）や地色の推移に十分注意し、適期収穫に努めましょう。

イ 「ふじ」の栽培管理

反射シートの敷設や摘葉等の収穫前管理は遅れないように実施しましょう。

「ふじ」の摘葉を9月下旬頃から実施する場合は、1回目は果実と接触している葉を中心に数枚程度を摘葉し、10月中旬に玉回しと合わせて再度実施しましょう。

#### ウ 秋肥の施用

秋肥は、マルバ台樹では9月下旬～10月上旬、わい性台樹では10月上旬に施用しましょう。窒素肥料は速効性と緩効性のものを組み合わせ、有機物肥料は分解に時間がかかるため、秋施用としましょう。

### (4) ぶどう

#### ア 収穫における留意点

収穫が遅れると脱粒や果肉が柔らかくなるなど果実品質の低下を招く恐れがあるため、適期収穫に努めましょう。

#### イ 秋肥の施用

収穫後の9月中旬頃は秋根が活発に伸びる時期で養分吸収も盛んであるため、秋肥を施用し、来年の貯蔵養分を蓄積させましょう。ただし、新梢の遅伸びにも影響するので、自園での新梢の停止状況、葉色、新梢の登熟程度などをよく観察して施肥の量を判断しましょう。

施肥は尿素を中心に速効性肥料を用いて、窒素成分で2kg/10a（年間施肥量の3割程度）を目安に施用します。

なお、樹勢が強い樹、葉色が濃く、遅伸びしているような新梢が多い樹では、秋肥の施用を控えます。

## 4 病害虫防除上の留意点

### (1) 病 害

#### ア りんごの各種病害

9月上旬における褐斑病の発生圃場割合は県内全域で平年よりやや低く、炭疽病の発生ほ場割合は県内全域で平年並でした（平成30年9月14日付け病害虫発生予察情報・発生予報第7号）。9月中旬以降、降雨により湿度が高い状態が続くと、褐斑病、すす点病、すす斑病の防除が必要となります。また、炭疽病が認められる場合、二次感染により発生が拡大するおそれがあるため、罹病果は見つけ次第速やかに除去しましょう。

防除薬剤は、晩生種を対象にオーソサイド水和剤80 600倍、またはストライド顆粒水和剤 1,500倍を使用します。なお、農薬の総使用回数と収穫前日数に注意しましょう。

象にオーソサイド水和剤80 600倍、またはストライド顆粒水和剤 1,500倍を使用します。なお、農薬の総使用回数と収穫前日数に注意しましょう。

#### イ モモせん孔細菌病

9月上旬における中通り北部の新梢葉での発生ほ場割合は、平年並の状況であり（平成30年9月14日付け病害虫発生予察情報・発生予報第7号）、今後の台風等の影響により、感染、発病が懸念される状況です。また、9月中下旬の降水量が多いと翌春の春型枝病斑の発生が多くなる傾向なので、秋期防除を確実に実施し越冬菌密度の低下を図りましょう。

防除薬剤は4-12式ボルドー液またはICボルドー412 30倍を使用し、9月上旬～10月下旬に2週間間隔で3回散布します。なお、これらの剤にかえてクレフノン 100倍加用コサイド3000 2,000倍、またはクレフノン 100倍加用ムッシュボルドーDF 500倍を使用してもかまいません。ただし、コサイド3000は高温時に使用すると落葉等の薬害を生じることがあるので注意しましょう。

#### ウ ナシ黒星病

9月上旬における新梢葉での発生ほ場割合は中通り北部で平年よりもやや高く、中通り南部と浜通りで平年よりやや低い状況でした（平成30年9月14日付け病害虫発生予察情報・発生予報第7号）。

本病の発生が多かった園では越冬菌密度の低下を図るため、「豊水」収穫後に2回目の秋期防除を必ず行いましょう。防除薬剤は、オーソサイド水和剤80 600倍、またはベルク

ート水和剤 1,000倍を使用し、散布の際は予備枝等の先端まで薬液が十分量到達するように散布しましょう。

## (2) 虫 害

### ア コスカシバ

被害が多いもも園では、収穫後（9月中旬～下旬）にスプラサイドM 200倍、またはトラサイドA乳剤 200倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

### イ クワコナカイガラムシ

ナミハダニやカイガラムシ類などの樹上越冬害虫を誘殺するため、9月下旬頃に枝幹部に麻袋や飼料袋などを巻き付けてバンド誘殺を行い、2月上旬に取り外して適正に処分しましょう。

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>